

日本原燃からの報告の概要
(7月8日11時08分までに受けたもの)

- 7月2日18時50分頃、日本原燃株式会社（以下「日本原燃」という。）再処理事業所において、高レベル廃液ガラス固化建屋の安全冷却水B系の流量が同日15時31分頃から低下していることを確認した。
- 点検の結果、同日23時43分に供給液槽Bの安全冷却水B系の仕切弁が閉止していることを確認し、同日23時44分に当該仕切弁を開け、安全冷却水B系の流量が復帰した。本事象発生時は、安全冷却水A系は工事のため計画的に停止中であり、当該仕切弁が閉止していたことにより供給液槽Bの廃液の温度が上昇していたことから、日本原燃は7月3日2時26分、安全冷却機能が喪失していたと判断した。
- 本日11時00分、日本原燃は、安全冷却機能が喪失し、溶液等の温度が有意に上昇したことから、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第62条の3の規定に基づく報告事象に該当すると判断した。
- 本事象による周辺環境への影響はない。

以上

安全冷却水A系統

安全冷却水B系統

(参考)

中間熱交換器 (A系)

中間熱交換器 (B系)

